

月刊しばうら

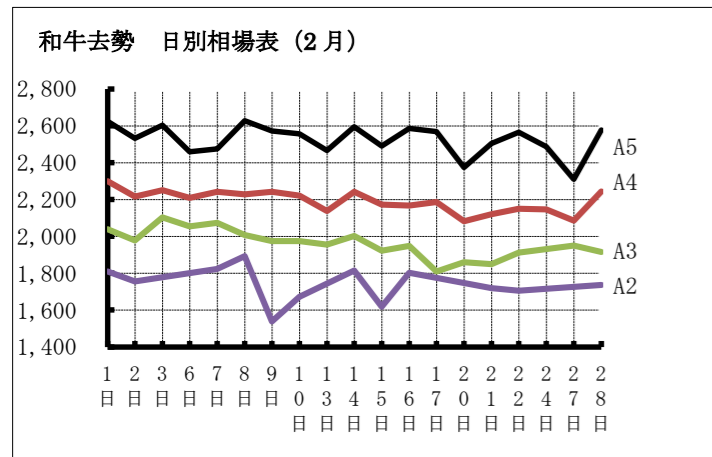
2023年 3月号

牛肉営業部

<2月の相場動向>

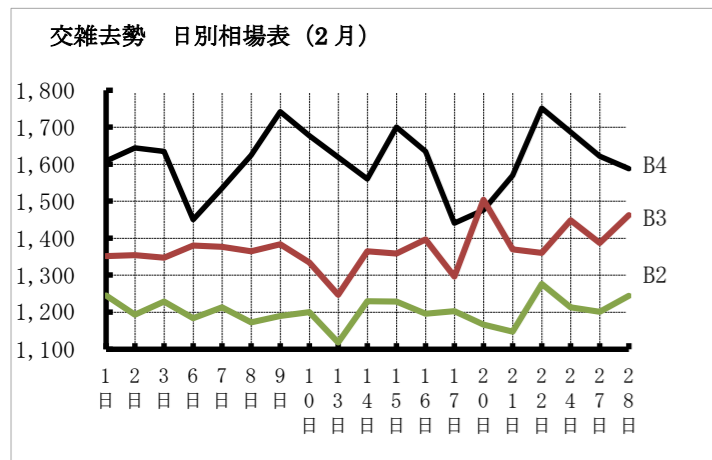
2月は1年のうちで牛肉需要が不振となる月であることに加え、エネルギーコストをはじめとした諸物価の上昇に伴い、消費者の生活防衛意識が高まったことで、牛肉需要は低迷し、相場は落ち込んだ。品種別売上においては、和牛、交雑種ともに前年実績、前月実績を下回っている。

1月の輸出実績においても前年実績を下回り、牛肉全体としての需要は低い水準で推移した。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比		
A5	2,546円	-19円	99.3%	-33円	98.7%
A4	2,200円	-84円	96.3%	-107円	95.4%
A3	1,961円	-97円	95.3%	-144円	93.2%
A2	1,731円	-53円	97.0%	-66円	96.3%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比		
B4	1,611円	-24円	98.5%	-51円	96.9%
B3	1,380円	-64円	95.6%	-102円	93.1%
B2	1,203円	-52円	95.6%	-102円	92.2%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比		
B3	—	—	—		
B2	941円	-21円	97.8%	-107円	89.8%

<3月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、1月の輸入量は前年同月比1.2%減の3万9,914tで、うちチルドは1.6%減の1万6,081t、フローズンは前年同月比1.0%減の2万3,833tとなった。

農畜産業振興機構によると2月の牛肉輸入量は、前年同月比7.7%減の3万5,200t(チルド12.8%減、冷凍2.1%減)、3月は3.3%減の3万2,800t(チルド10.4%減、冷凍4.0%増)で予測している。

輸入牛肉については、比較対象である前年の数量が落ち込んでいるため、今年が例年より増えたというわけではない。

輸入牛肉通関量	1月	前年同月	前年同月比	
チルド	豪州	5,453	5,744	94.9%
	米国	8,555	8,595	99.5%
	その他	2,073	2,000	103.7%
	合計	16,081	16,339	98.4%
フローズン	豪州	9,734	10,391	93.7%
	米国	7,789	6,522	119.4%
	その他	6,300	7,150	88.1%
	合計	23,833	24,063	99.0%

出典：食肉速報 単位：t

<3月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による3月の出荷予測頭数は、全体で前年比104.3%の8万6,900頭で、品種別にみると和牛は1.7%増の4万200頭、交雑種は14.5%増の2万3,000頭、乳用種は1.1%減の2万9,100頭と予測している。

東京食肉市場の3月のと畜頭数は、7,150頭を予定しています。

<3月の牛枝肉相場見通し>

新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向に転じているものの、外食産業をはじめとした牛肉需要の回復につながっているとは言い難い状況である。

一方、1月の訪日外客数は149万人超となり、前月に引き続き100万人を超えた。中国からの入国者の規制が緩和されるため、更なるインバウンド需要の拡大を期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400~2,800	B4	1,450~1,700
A4	2,150~2,350	B3	1,250~1,400
A3	1,900~2,100	B2	1,150~1,250
A2	1,800~1,900		
乳牛去勢			
B3	1,100~1,150		
B2	1,000~1,050		

豚肉営業部

1月の全国と畜頭数は、前年同月比0.8%増の142万9,661頭。また、1月の豚肉通関数量は8万2,587t(前年同月比23.9%増)と前年を大幅に上回った。内訳はチルドが3万8,950t(16.2%減)、フローズンは4万3,637t(31.6%増)とそれぞれ大きく増加した。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
比	97%	91%	80%	123%	99%	97%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

1月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	15,767	82.0%	デンマーク	5,123	89.7%
カナダ	15,879	88.4%	スペイン	12,942	93.1%
メキシコ	2,913	167.7%	メキシコ	5,438	68.5%
			アメリカ	2,835	109.3%
			カナダ	4,480	152.1%
合計	34,559	88.8%		40,350	92.4%

単位：t

<2月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	60,500	651	581	719
2日	67,900	612	577	704
3日	65,600	594	578	864
6日	68,900	611	584	766
7日	67,500	589	560	971
8日	67,500	607	574	773
平均	66,317/日			800/日

2月に入り、月初の手当に加え北日本を中心とした寒波によって、出荷頭数が減少傾向となり、相場は急上昇し、上物価格は600円台まで上げた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
9日	65,900	588	554	764
10日	61,600	575	554	933
13日	63,400	553	538	755
14日	68,900	564	546	782
15日	66,300	572	559	629
16日	68,200	570	562	599
17日	65,300	580	571	1,000
平均	65,657/日			780/日

消費が落ち着く時期にもかかわらず、全国と畜頭数が落ち着いたことで、強もちあいの展開となった。特に大きなイベントもなく、節約傾向が強まる中、売り場では輸入品へシフトする傾向がみられた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	71,700	581	558	890
21日	73,700	591	585	1,022
22日	69,600	590	579	851
24日	71,500	587	573	1,168
27日	67,700	601	594	991
28日	68,800	596	583	922
平均	70,500/日			974/日

23日が祝日だったことから、一時的に末端消費は鈍い状況が続いたが、輸入ポークの通関遅れなどの影響もあり、国産物の需要は底堅く相場は強もちあいの展開となった。

<3月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和5年3月の肉豚出荷予測では145万1,000頭(前年比96.6%)と予測している。当市場の3月集荷予定せり頭数は1万8,000頭、1日あたりでは約818頭を見込んでいる。

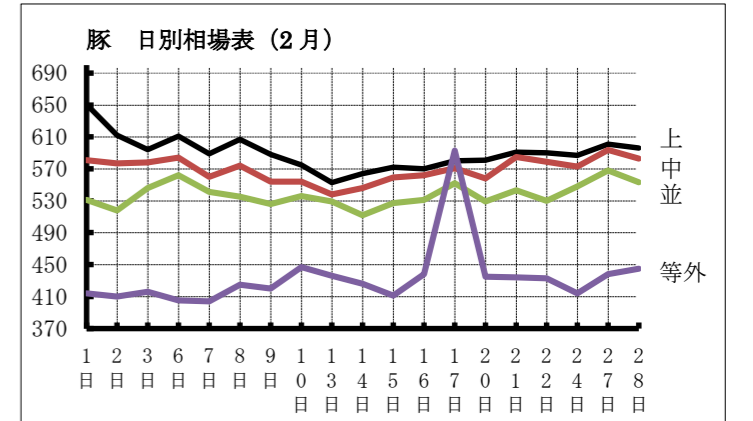
農畜産業振興機構によると3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万8,000t(前年比94.7%)、内訳は冷蔵輸入量が3万3,900t(同86.8%)、冷凍輸入量は3万4,100t(同104.0%)と予測。

冷蔵品輸入量は、為替の影響や、主な輸入元である北米の現地相場の高止まり等により、前年同月を大幅に下回ると予測する。また3ヵ月平均も前年同期を大幅に下回ると予測する。

冷凍品輸入量は、北米における現地価格の高止まりや為替の影響があるものの、主要輸入地域である欧州から安定的に供給されることが見込まれるため、前年同月をやや上回ると予測する。一方、3ヵ月平均は前年同期をやや下回ると予測する。

新型コロナウイルス新規感染者数は減少傾向にあり、3月13日以降のマスク着用は個人判断に委ねられる方針となり、春の行楽シーズンに向けた外出需要と、それに伴う豚肉流通の増加に期待が高まる。しかし、昨年から続く諸物価の高騰に伴い、消費者の節約志向は強まり、末端需要はスソ物中心となることが予想される。また、国産凍結物の在庫が少ないものの、中間流通物を凍結に回す余裕はなく、引き続きタイトな状況が続く見通しである。一方、輸入品は昨年11月から今年1月にかけて末端消費が不振であり、引続き買い付けを抑えたことにより、国産豚肉相場に影響はないとみられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は570円前後、中物平均価格550円前後の展開と予測する



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127